

ところ会 12 月行事案内

高田馬場と王子、飛鳥山

早稲田で都電に乗って王子まで行き王子神社等を見て歩き、午後は飛鳥山公園の博物館に行きます。今年は紅葉するのが遅いようで、12月でもまだ期待できます。

記

■日 時：平成 30 年 12 月 7 日（金）
8:55 西武新宿行きホーム後方に集合して下さい。

■見学場所及び時間：コース全長約 5km

所沢駅(9:00)急行西武新宿行.....高田馬場乗り換え...早稲田駅(9:41)
⇒穴八幡宮⇒高田馬場跡⇒甘泉園公園（小休止）⇒都電面影橋.....
王子駅前⇒音無親水公園⇒王子神社⇒王子稲荷⇒名主の滝公園
⇒昼食⇒飛鳥山公園一紙の博物館・飛鳥山博物館・渋沢栄一記念館
⇒王子駅前バス停.....池袋駅.....所沢駅(予定時間 16:00 頃)

■交通費 約 1,060 円

■入館料 三館共通券 720 円 昼食 2,300 円

■関連簡単ガイド

<穴八幡宮>

社伝によると、1062 年源義家が奥州からの凱旋の途中、この地に兜と太刀を納め、八幡神を祀ったといわれています。

1641 年（寛永 18 年）南側の山裾に横穴が見つかり、中から金銅の御神像が現れ、以来「穴八幡宮」と称するようになりました。

将軍家光は、穴八幡宮を幕府の祈願所・城北の総鎮護とした。また将軍吉宗は、世嗣の疱瘡平癒祈願のため流鏝馬を奉納し、流鏝馬はその後も世嗣誕生の際や厄除け祈願として奉納されました。江戸の庶民からも信仰を集め、特に蟲封じの祈祷は有名でした。また、冬至の「一陽来復」のお守り（冬至から節分まで受けられる）でも知られています。

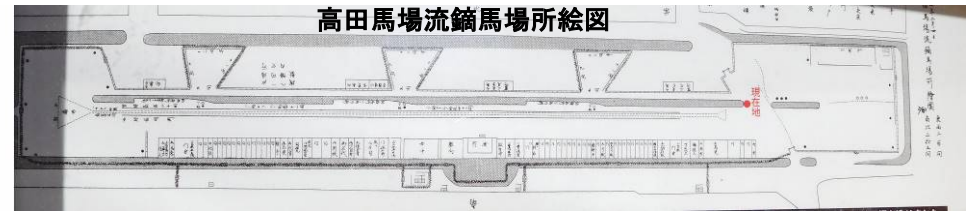


文化財

高田馬場流鏝馬（区指定無形民俗文化財）：吉宗が奉納したのがはじまり。明治維新後、長く中断されていたが昭和 9 年に皇太子（今上天皇）誕生の際に再興。戦後は昭和 54 年から毎年体育の日に都立戸山公園を会場として行われている。

布袋像の水鉢（区指定有形文化財：工芸品）：1649 年（慶安 2 年）造立、区内最古の水鉢。江戸城吹上御苑に置かれていたが、徳川家光により奉納されたという。

<高田馬場跡>:馬場は寛永 13 年（1636）に造られたもので、旗本たちの馬術の練習場でした。また、穴八幡神社に奉納するため催された流鏝馬などが行われ、将軍の供覧に入れたところでもある。人出も多かったので享保年間（1716～1753）には馬場の北側に松並木がつけられ、8 軒の茶屋があった。交差点角の寿司屋さんの前に説明がある。



また、馬場の一角、茶屋町通りに面したところは、堀部安兵衛が叔父の菅野六郎左衛門の決闘の助太刀をしたとされる場所で、水稻荷神社の境内に「堀部武庸加功遺跡の碑」が建っている。



<甘泉園公園>:宝永年間（1704-11）に尾張徳川家の拝領地となり、その後安永三年（1774）に初代清水家の江戸下屋敷が置かれていました。明治以降は、子爵相馬邸の庭園として整備され、その後早稲田大学が譲り受け現在は区立公園となっています。

この公園で小休止

この後、都電荒川線に乗って王子まで行きます。（SUICA 使えます）



<音無親水公園>:石神井川はこの付近では“音無川”と呼ばれ親しまれ、古くからの春の桜・夏の青楓と滝あび・秋の紅葉など四季の行楽の名所、景勝の地でした。



近年、飛鳥山公園の下に2本のトンネルを掘り、石神井川流路のショートカットが行われ、残された旧流路に、「かつての溪流を取り戻したい」として音無親水公園ができました。

なお、石神井川は隅田川に合流していますが、昔はこの近辺で大きく南に流路を変え上野不忍池方面に向かっていました。

<王子神社>

創建は明らかではありませんが、源義家の奥州征伐の折に慰霊祈願を行い、甲冑を納めた故事も伝えられます。

元亨2年(1322年)、領主豊島氏が紀州熊野三社より王子大神をお迎えして、改めて「若一王子宮」とし、熊野にならって景観を整えたといわれます。それよりこの地は王子という地名となり、神社下を流れる石神井川もこの付近では特に音無川と呼ばれています。



徳川時代に入ると家康公は天正19年(1591)、朱印地二百石を寄進し將軍家祈願所と定め、「王子権現」の名称で江戸名所の1つとなります。二百石は王子村の石高の2/3にもあたります。家光公は社殿を新造し「若一王子縁起絵巻」3巻を奉納しました。五代綱吉、十代家治、十一代家斉が社殿の造営修繕をしています。

紀州徳川家の出であった吉宗公は、紀州ゆかりの神社があることを喜び、元文2年(1737)に飛鳥山を寄進、桜を多く植えて江戸庶民遊楽の地としました。

王子神社のイチヨウ:音無親水公園から王子神社に登る途中に都天然記念物のイチヨウがあります。幹囲5.2m、高さは24mです。樹齢は600年以上とされます。



<王子稲荷>:創建時期は不明。古くは荒川の岸にあったため岸稲荷と言われた。また、源頼義は東国三十三国の稲荷総司として崇敬していました。

江戸期には王子神社と共に徳川將軍家祈願所の一つに指定され、幕府によるたびたびの社殿造営があり、現社殿は文政5年(1822)十一代將軍家斉により寄進されたものですが、空襲により本殿は大破し昭和35年に再建されました。



落語王子の狐の舞台にもなっており、大晦日から正月にかけて「王子・狐の行列」が行われます。狐の住んでいた跡が「狐の穴跡」通称「お穴さま」として信仰の対象になっています。

王子稲荷神社には「願掛けの石」と呼ばれているものがあります。願い事を念じながら石を持ち上げ、予想した重さよりも軽く感じれば叶いやすい、重く感じれば叶いづらく努力が必要という言い伝えが残されています。

額面著色鬼女図:国認定重要美術品

見ることはできませんが、門の脇に説明板があります。



<金輪寺>

王子神社の別当寺で、將軍が日光社参や鷹狩りの際の休息所となっていました。入口付近に立派な不動明王の石塔(文化七年)がありました。

<名主の滝公園>

江戸時代の安政年間(1854~1860)に王子村の名主「畑野孫八」が自邸に開いたのが始まりで、“名主の滝”の名前の由来もここから来ました。庭園として整備されたのは、明治の中頃で、垣内徳三郎という人の所有になってからでした。昭和13年には、株式会社精養軒が買収し、食堂やプールなどが作られ公開され続けてきましたが、昭和20年4月の空襲により焼失し、ようやく東京都によって再公開されるようになったのは昭和35年11月でした。

王子近辺には滝が多く、かつて「王子七滝」と呼ばれる7つの滝がありました。このうち「名主の滝」だけが現存する唯一の滝となっています。

「名主の滝」は、都内でも有数の8メートルの落差を有する男滝を中心とする女滝・独鈷の滝・湧玉の滝の4つの滝からなります。

名主の滝公園は、これらの滝とケヤキ・エノキ・シイ、そして**100本余りのヤマモミジ**が植えられた斜面を巧みに利用して自然の風景を取り入れた回遊式庭園です。ただし、唯一水が流れている男滝の水がポンプの故障で現在流れない状態となっております。

〈昼食〉 12:30頃～ フランス料理古川屋 ☎03-5974-0122

前菜、パン、メイン（肉 or 魚）、デザート、コーヒー 税込2,300円
（ビール・ワインは700円）

〈飛鳥山の博物館〉

紙の博物館、飛鳥山博物館、渋沢資料館と三館並んで博物館があります。それぞれ、興味の度合いが異なると思いますので90分で自由に三館を見て頂く形にしたいと思います。飛鳥山博物館に集合下さい、3階には喫茶室もあります。

三館共通券：720円

個別：300円、北区飛鳥山博物館のみ65歳以上150円（三館で750円）

帰路：王子駅前から都バスで池袋駅経由帰ります。 所沢帰着16時頃予定

〈紙の博物館〉：世界有数の紙専門のユニークな博物館

紙の博物館は和紙、洋紙を問わず古今東西の紙に関する資料を幅広く収集し、保存・展示する、世界有数の紙専門の博物館です。1950年にわが国の洋紙発祥の地である王子に開設されましたが、首都高速の建設に伴い、1998年に現在の飛鳥山公園内へ移転しました。多くの紙関係会社の支援によって運営されています。

常設展示では、紙の製造工程、種類や用途、紙の歴史、紙の工芸品、歴史的資料や生活用品などを展示しています。また紙に関する書籍、約1万5千点を有し、図書室で一般にも公開しています。

<http://www.papermuseum.jp/>

第一展示室：現代の製紙産業 第二展示室：紙の教室

第三展示室：紙の歴史

〈北区飛鳥山博物館〉：北区のことがなんでもわかる博物館

北区飛鳥山博物館は、地域の郷土風土博物館として、北区の歴史・自然・文化などに関する展示や調査研究などの活動を幅広くおこなっています。

1階の常設展示室では、「大地・水・人」をコンセプトに、1つの象徴展示と14のテーマ展示を展開しています。武蔵野台地と東京低地の境にある北区の成り立ちから、古代人の暮らし、江戸時代の名所の発展、さらには荒川の生態系まで、実物資料はもちろん複製資料（レプリカ）、映像、復原家屋などを通して、地域の風土とともに連綿と営まれてきた人々のくらしぶりが実感できる展示となっています。

また、2階には企画展（都電の記憶－北区ゆかりの19系統・32系統を巡って を開催中）や特別展示室のほか、図録や各種オリジナルグッズを取り揃えたミュージアムショップがごぞいます。**3階の無料ゾーン**では飛鳥山アートギャラリーで北区ゆかりの美術伝統工芸品をご覧になることができます、また**喫茶軽食の店カフェ・ヴァーチュ**がありますので、ここで休憩することができます。

<https://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/>

〈渋沢資料館〉近代日本を創ったリーダー・渋沢栄一の志を伝え続ける博物館

渋沢史料館は、日本の近代経済社会の基礎を築き、実業界のみならず社会公共事業、国際交流の面においても指導的役割を果たした渋沢栄一

（1840-1931）の生涯と、多方面にわたる事業や人々との交流に関する数多くの資料を収蔵、展示しています。

常設展示では、渋沢が設立に関わった企業・団体と手がけた事業に関する資料、生い立ちや家族にまつわる資料、手紙、書画などとともに、近代化を伝える錦絵や写真も展示しています。これに加えて、渋沢の事績や交流関係などにスポットを当てて紹介する企画展も開催しています。

現在の渋沢史料館が建つ飛鳥山公園の一角「旧渋沢庭園」は、渋沢邸の一部です。現存する2棟の大正建築「晩香廬（ばんこうろ）」と「青淵文庫（せいえんぶんこ）」は国の重要文化財に指定されおり、一般に公開しています。

<https://www.shibusawa.or.jp/museum/>